兒雷也豪傑譚 上の巻

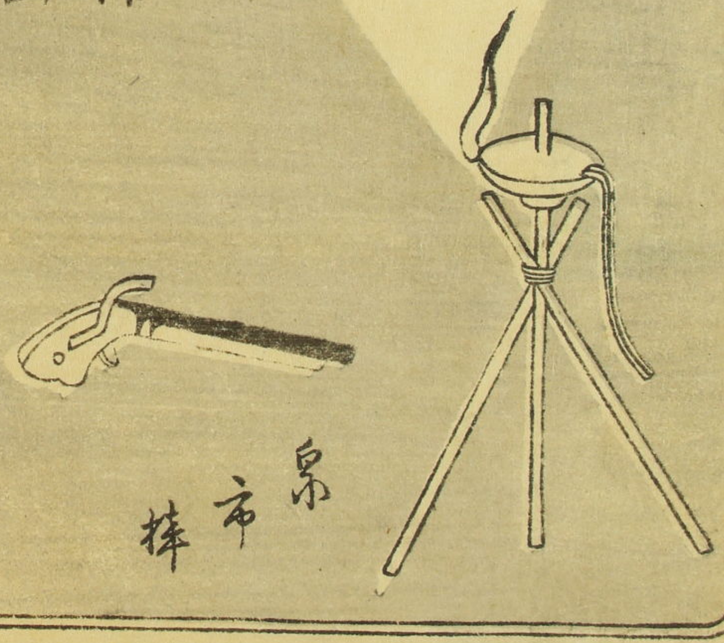
へ13
3878
17

門へ13
號3878
巻17

兒雷也豪傑譚

上巻

柳亭一寿作
一寿画



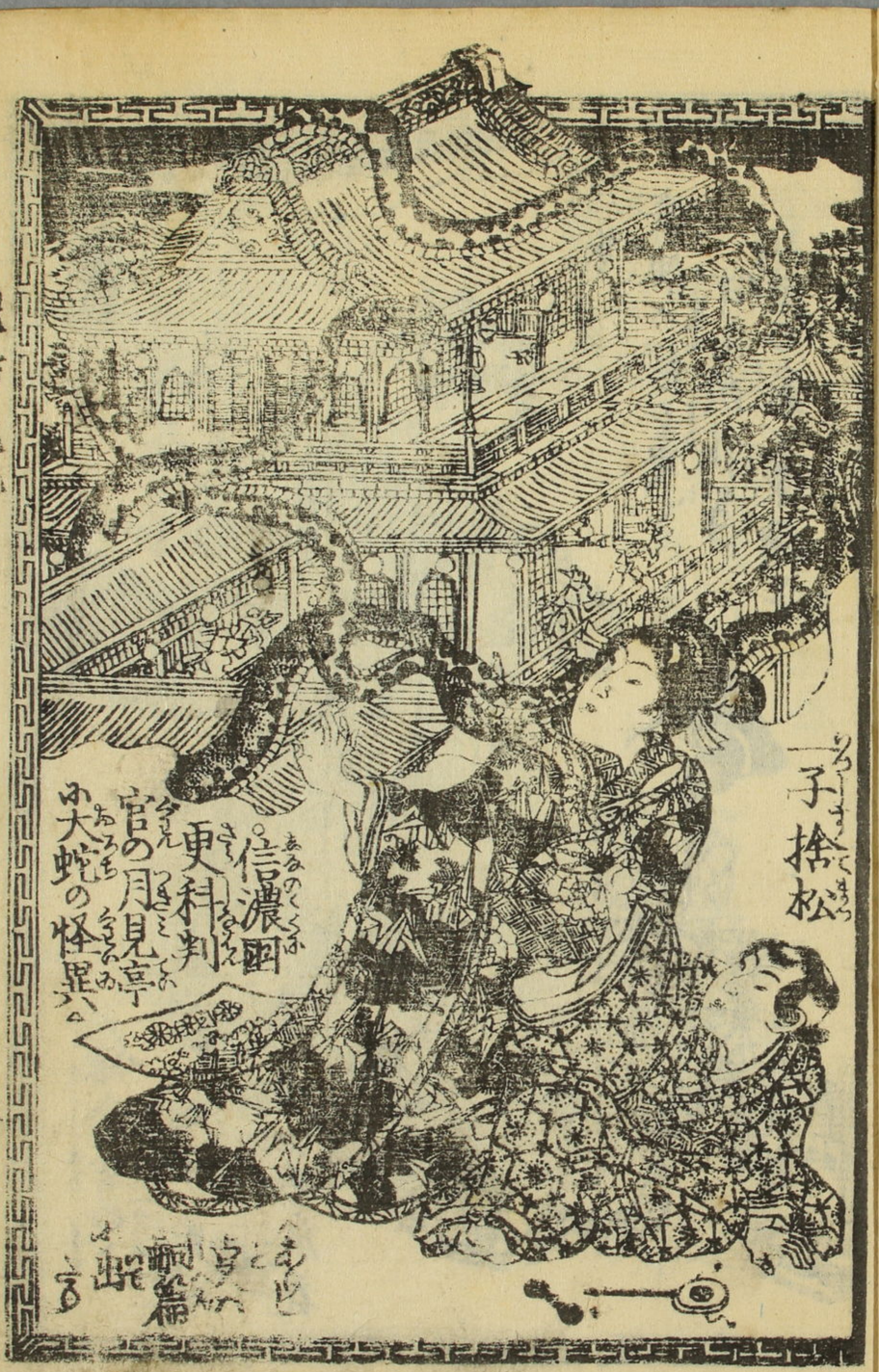
泉市梓

楚書に曰く楚國の以て貴とする物は唯善人なり其善人を行ふ難し然れども古昔より聖賢も只善道に入らんと人の性に善あれば悪き道に入らざるべからず教へよとそるもあり亦性に悪あれば故に善道に入るべきを諭せとも戒めとも詩に如此善道に赴く人の理に従ひ果敢なき冊子物語も素より是勧善懲悪の一端にして趣向を音曲演戯に擬ひ新奇妙案工風を競ひ童蒙の伽にもそなへ抑此兒雷也の行ひ悪に似れども善に帰するの一日を以て一部の趣向とする者は夫矣顔子本意にして荀子の教に最近し請看編を嗣て佳境に至らば必其意を会得せべしと作者に代りて

戊甲孟春

一筆菴主人誌

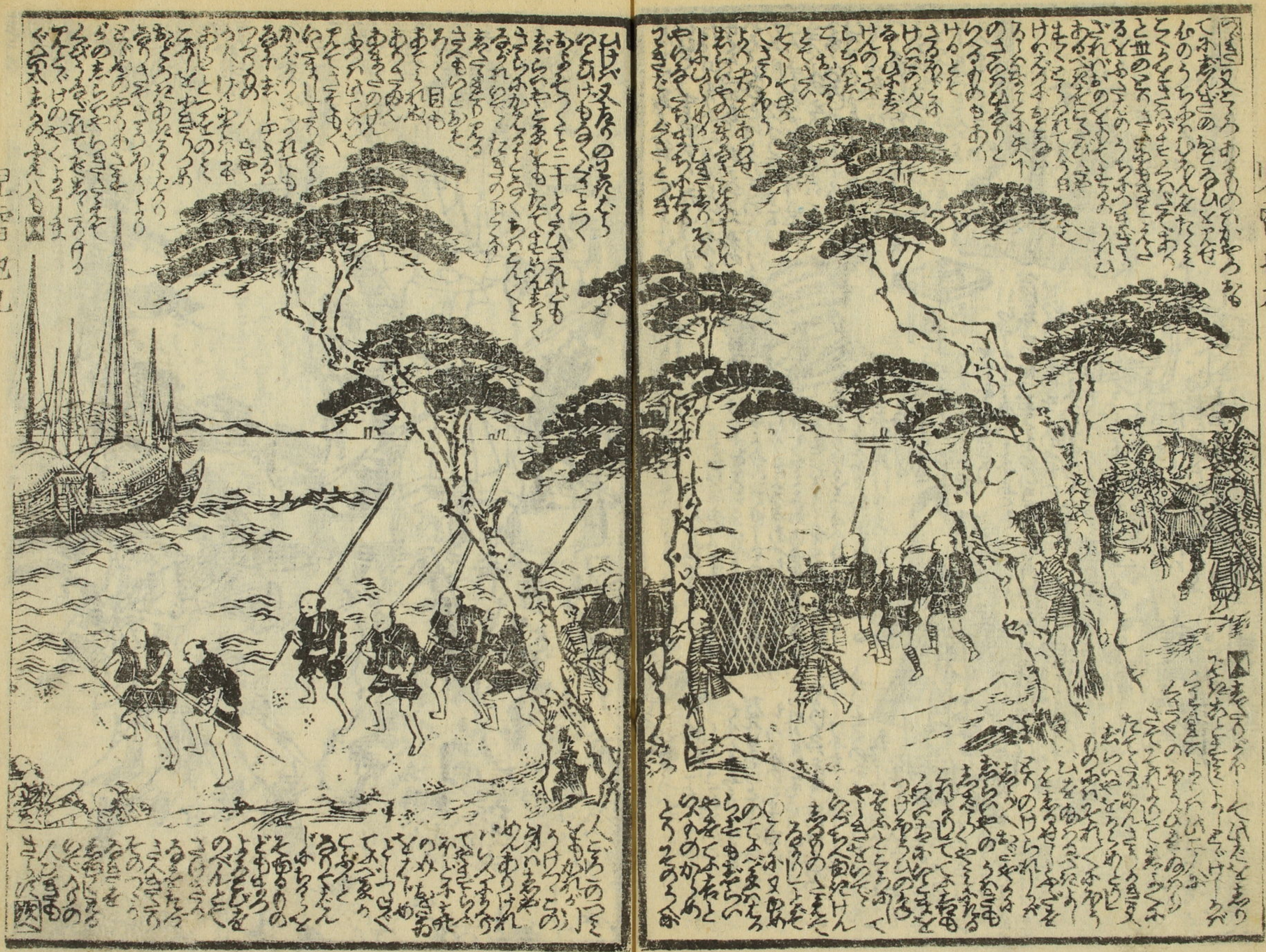
黒姫山の賊主
尾形周馬弘行
他輝名して
児雷也
姫松
須广太郎の


子捨松
信濃国
更科判
官の月見亭
に大蛇の怪異ハ

月光
奇偶の縁を曳て
半七於花
刀屋の家を栄績を
鎌倉雪の下
刀屋娘
於花

深松庵
草の鎌
刀屋の聟
半七

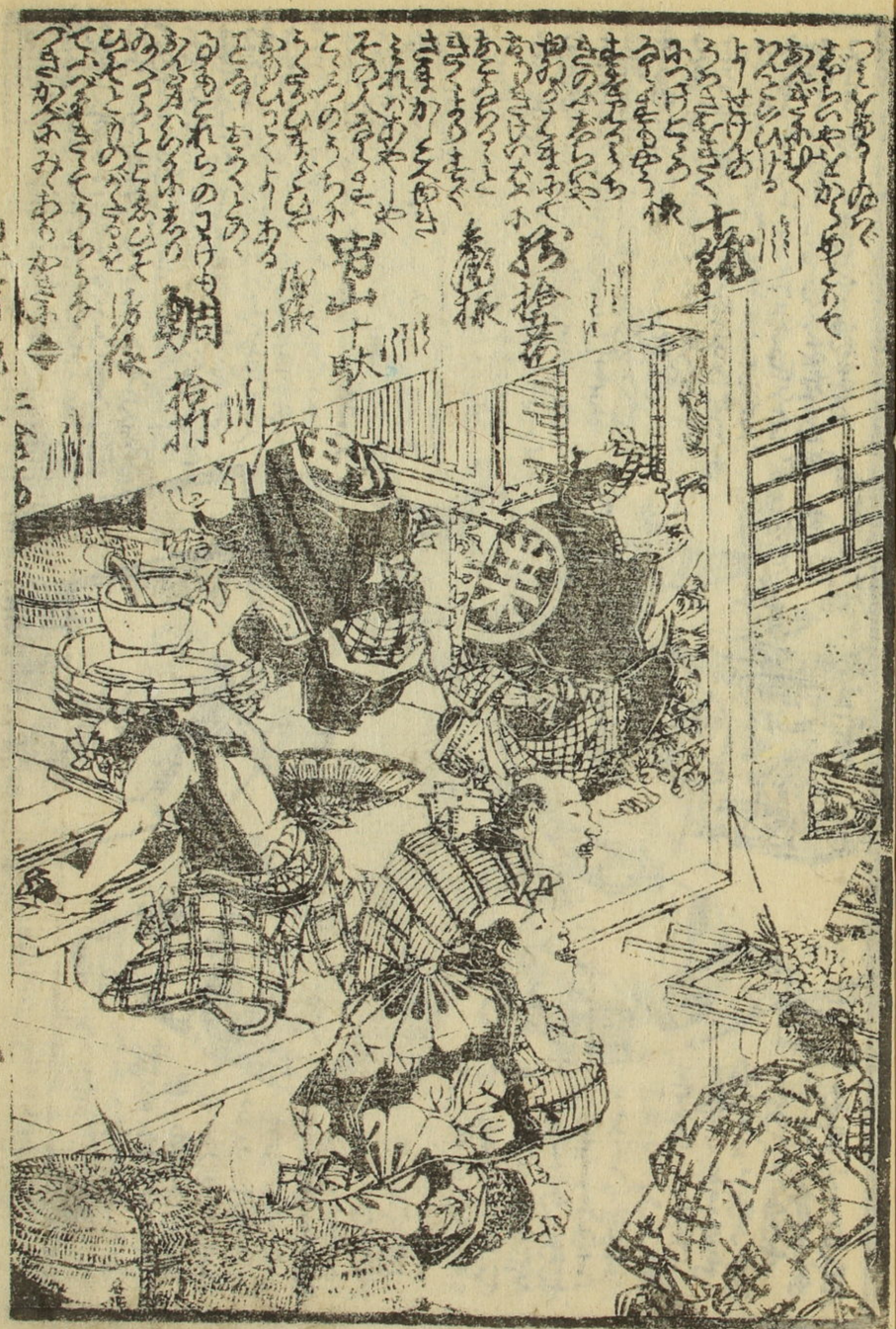
小賊の首
鶴
鉛八
金箱
出太郎
山猫弥五六
猫三郎
兎の宿の稲作
黒姫
山の小賊
稲作の家に
活入して
少女於綱を懲さる
この本文1丈安くうえそう
處女於綱
飴の中
於ヨヌ七

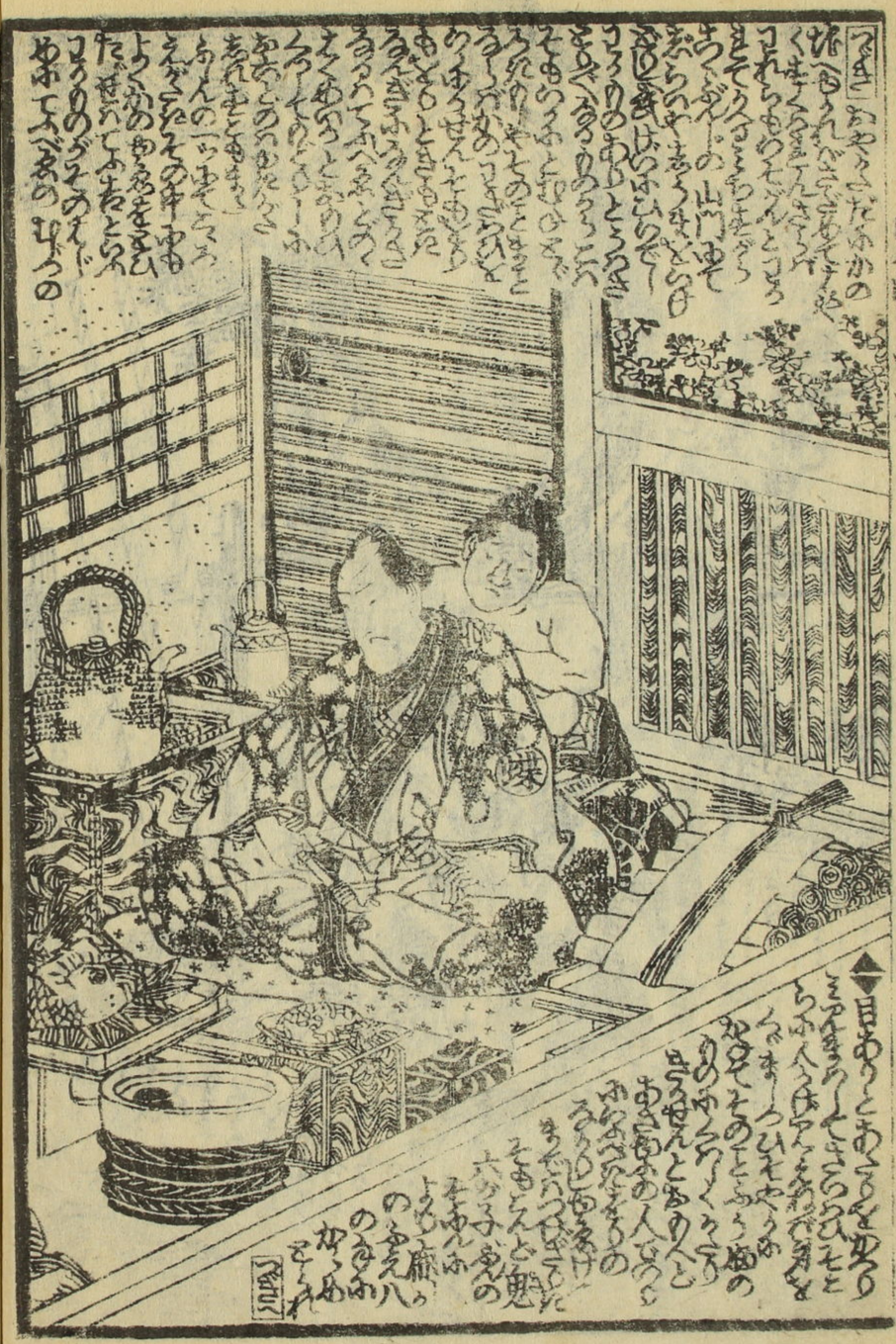


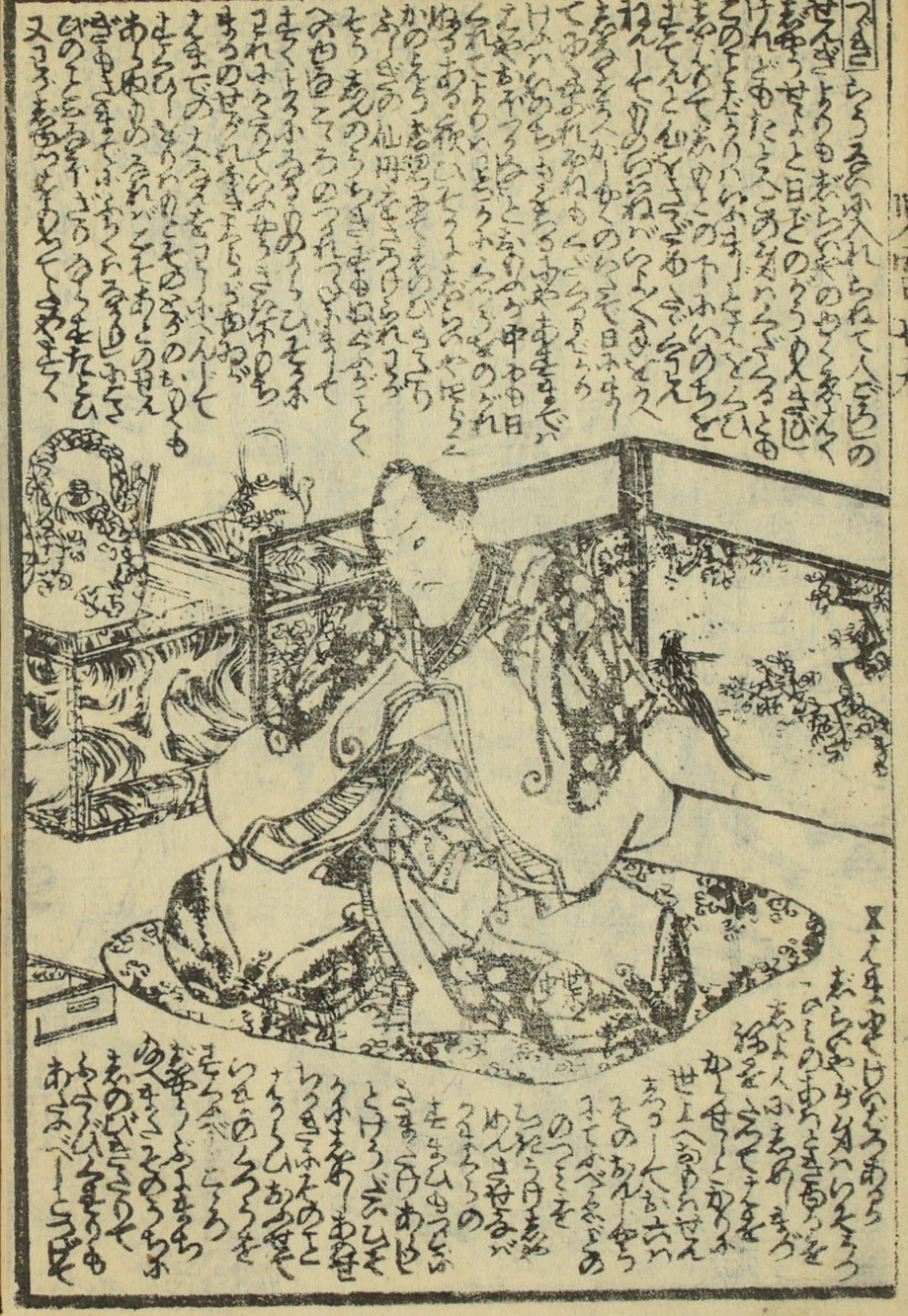
兒

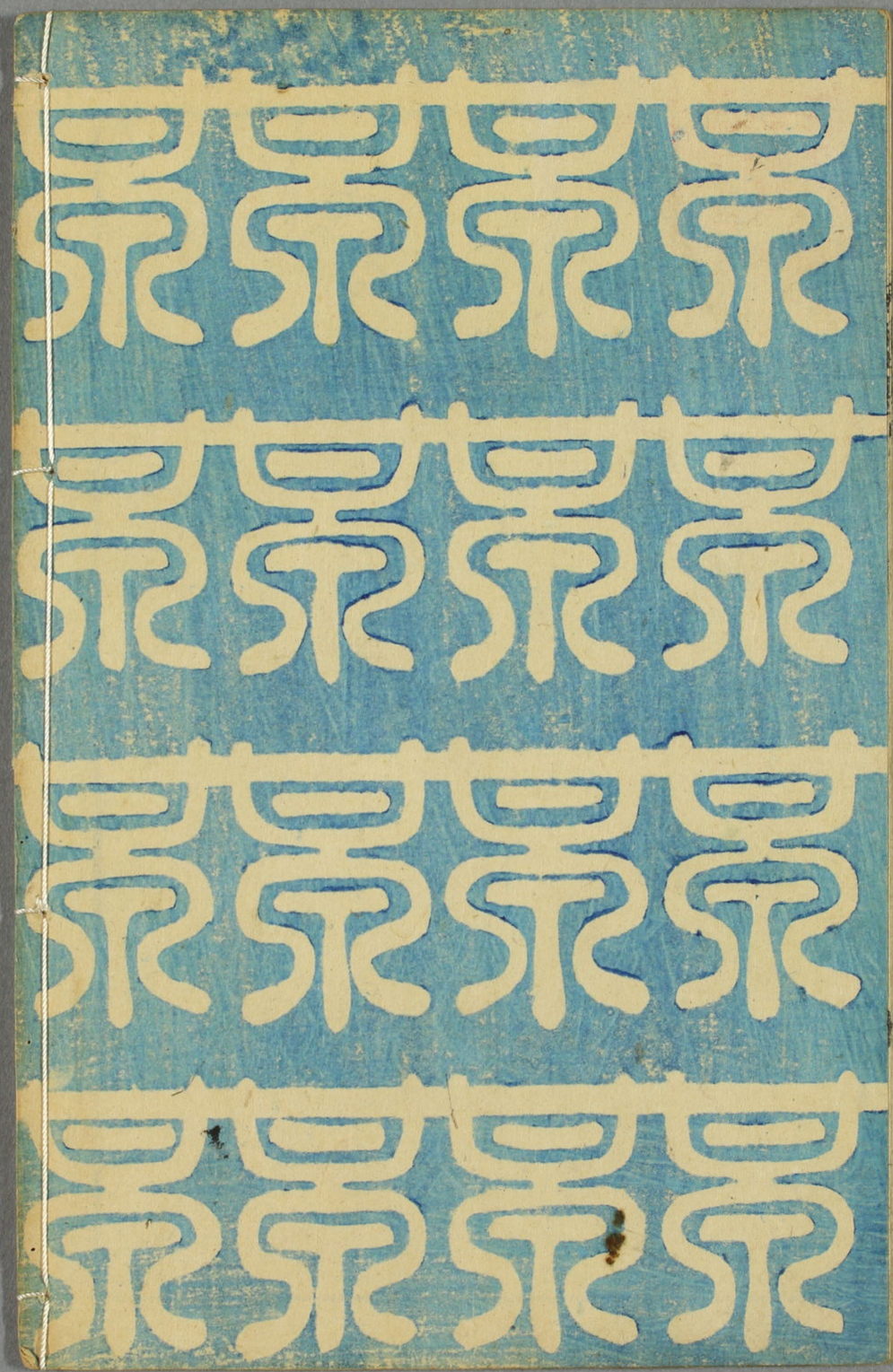
兒
笛
堀

○児雷也あらい
やとをのりひて
山寨ゆのる


十紙
宮山十駄
鬼捨
鬼捨





内
田
歌
川

一兇書出書
一休草紙
一俗謡前山
黄金水大盃盃
拾七箱
問屋
芝神明前
和泉屋
市兵衛
銀座二丁目
同
支店